

わたしたちも JICA海外協力隊を 応援しています!

群馬県青年海外協力隊を育てる会 / message

当会は、群馬県内の企業・OB隊員およびそのご家族で構成されている任意団体です。主な事業活動内容としては、JICA海外協力隊の活動中及び帰国後の支援活動を行っています。具体的には、協力隊パネル展・ボランティア家族連絡会への協力や、隊員帰国後の求職支援活動の取り組みなどがあります。なかでも、「派遣中隊員への県産品送付」事業は、毎年、現地の隊員から大変励みになるという声をいただいております。微力ではありますが、今後も隊員活動が充実していくように、サポートをしていきます。

【連絡先】TEL:027-232-1888 FAX:027-232-1880 メールアドレス:staff@fgpcci.or.jp



青年海外協力隊群馬県OB会 / message

私たちはJICA海外協力隊事業への側面援助を通し、国内・外との連携を深めつつ国際協力に寄与することを目的に活動しております。主な活動としては、講演会やパネル展などのイベント開催、また会員相互の親睦を深める活動を行っています。今後も群馬県の国際協力活動をさらに盛り上げていきます。またJICA海外協力隊OB・OGの入会もお待ちしております。

【連絡先】TEL:090-3680-4218 メールアドレス:byq11521@nifty.com

NPO法人 自然塾寺子屋 / message

私たちは「農村から世界の未来を育てる」というミッションのもと、世界の農業や農村のさまざまな在り方をグローバルな視点で情報交流できるプラットフォームとして、海外研修員へのプログラム提供やJICA海外協力隊派遣前研修、帰国隊員向けプログラムにも力を入れています。今後も「人づくり、地域づくり、心のふれあい」をモットーに事業を推し進めていきます。

【連絡先】
TEL:0274-74-6061 メールアドレス:info@terrakoya.or.jp
ホームページ:http://terrakoya.or.jp/ Facebook▶▶▶



JICA海外協力隊の活動は、派遣中も帰国後も多種多様です。

それぞれの経験や強みを活かしながら、SDGs達成に向けた取り組みを行っています。

SDGsやJICA海外協力隊についての疑問・質問等は、お気軽に下記のJICA群馬デスクまでお問い合わせください。

問い合わせ先

JICA群馬デスク 〒371-0026 群馬県前橋市大手町2-1-1 群馬会館3階 (公財)群馬県観光物産国際協会内
TEL: 090-4024-0097 MAIL: jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp

【気軽に相談できるJICA窓口】

JICA海外協力隊の応募相談、その他JICA事業ご利用のご相談など、お気軽にお問い合わせください!
群馬県の国際協力情報などを発信中! Facebook: <https://www.facebook.com/JicaGunmaDesk>



JICA海外協力隊ホームページ <https://www.jica.go.jp/volunteer/> 🔍 JICA海外協力隊

JICA 群馬から持続可能な 世界をめざそう! 海外協力隊と SDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



JICA海外協力隊とSDGs

JICA海外協力隊とは？

JICA海外協力隊は、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で開発途上国の国づくりに貢献する活動を行っています。

1965年に初の協力隊員が派遣されて以来、これまでに98か国に5万人をこえる隊員を世界各地に派遣してきました。任期は原則2年間。帰国後は日本や世界で協力隊経験を活かした活躍が期待されています。

JICA海外協力隊 3つの主な目的

<p>1</p> <p>開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与</p> <p>日本が持つ技術や経験を伝え、途上国の人々に役立ててもらいます。</p>	<p>2</p> <p>異文化社会における相互理解の深化と共生</p> <p>深化する相互理解と共生の営みにより持続可能な開発の実現を目指していきます。</p>	<p>3</p> <p>協力隊経験の社会還元</p> <p>本事業への参加を通じて身に付けた知識や経験を日本や世界の発展に役立てることが期待されています。</p>
---	---	--

エスディー ジーズ SDGsとは？

SDGsとは、“Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)”の略です。

2015年9月、国連本部で日本を含む193の加盟国が「みんながずっと地球に住み続けられるようにするためには」、「みんなにとって幸せな未来をつくるためには」どうしたらいいか話し合い、採択されました。

SDGsは開発途上国のみならず、先進国が抱える課題も網羅し、国やNGOなどだけではなく、民間企業や市民ひとりひとりの取り組みを求めています。

2030年までに、世界を変革していくための17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの達成に挑み続けるJICA海外協力隊

開発途上国で、現地の様々な課題解決に取り組むJICA海外協力隊。活動分野は9分野、190職種と多岐にわたり、どれも持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に欠かせないものです。そしてその活躍は帰国後も、協力隊経験の社会還元を通して続いています。

私たちの行動はSDGsとつながっている！

私たちの身近な行動も、世界の課題であるSDGsとさまざまな形でつながっています。例えば、フェアトレードの商品を選んで買い物することは、開発途上国の人々の働き方を変えるだけでなく、貧困をなくすことや、児童労働を防ぎ、子どもたちに教育を受けさせることにもつながります。

JICA海外協力隊の活動

<p>計画・行政</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ開発 ● 防災・災害対策 ● コンピュータ技術 など 	<p>公共・公益事業</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物処理 ● 土木 ● 建築 ● 都市計画 など 	<p>農林水産</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 野菜栽培 ● 農業機械 ● 獣医・衛生 など
<p>鉱工業</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動車整備 ● 食品加工 ● 皮革工芸 など 	<p>エネルギー</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電力 ● 再生可能・省エネルギー など 	<p>商業・観光</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経営管理 ● マーケティング ● 観光 など
<p>人的支援</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校教育 ● 料理 ● 手工芸 ● 各スポーツ職種 など 	<p>保健・医療</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 感染症・エイズ対策 ● 看護師 ● 栄養士 ● 理学療法士 など 	<p>社会福祉</p> <p>【例えばこんな職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルワーカー ● 障害児・者支援 ● 高齢者介護 など

【配属先】
シンドゥバルチョーク
郡農業開発事務所

Hiroo Asai 浅井 広 大 さん

【派遣国】 ネパール
【職種】 村落開発普及員
【派遣年度】 平成24年度3次隊

profile

派遣前から現在まで

派遣前
1988年 静岡県掛川市生まれ
2012年 京都大学経済学部卒業

派遣中

2013年 1月:ネパールへ赴任
3月:現地語学訓練を終え、首都から任地であるシンドゥバルチョーク郡メラム市へ移動。
4月:配属先の支所はほとんど閉鎖しているため、周辺の村で面白そうな農家さんがないか歩きまわると。
7月:同じ地域で活動する隊員と関わりのあるネパール人と地域巡回型の研修を実施。自分は学校などで日本とネパールの稲作の違いや肥料の役割などを紹介する。
12月:キノコ栽培の研修を各地で行う。
2014年 4月:各地の農家さんを巡り面白いことをしている人を探る。
9月:地域の農家さんを講師役にした研修会を実施
10月:ダサインという長期休暇を利用して、エベレストトレッキングへ。
12月:報告書作りや農業部会長、ドミトリ委員長としての引継ぎ業務に奔走。
2015年 1月:帰国
4月:NPO法人自然塾寺子屋にてネパール大地震からの復興支援活動に従事。
2016年 4月:甘楽町地域おこし協力隊として養蚕振興に携わる。
2019年 4月:富岡市で養蚕農家として独立。

01 派遣前&応募動機

海外や外国語に興味があり、アルバイトでお金をためては海外に行き、大学でベトナム語やラオス語を勉強していました。旅行では得られないような体験をし、また自分が勉強してきた分野(農業経済)を少しでも現地に生かされたいと思っていました。

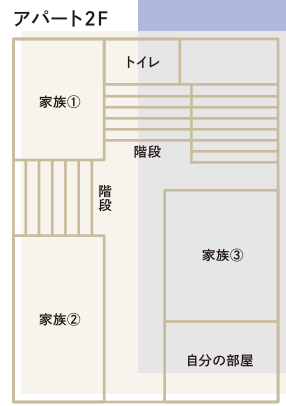
02

ネパールでの活動

前任者が取り組み始めたキノコ栽培の普及を主な活動として行っていました。現地ではベジタリアンが多く、健康にも良いと評判で高値で取り引きされており、資材費もそこまでかからないので、農家の小遣い稼ぎにはぴったりだったみたいです。収穫までそう重労働ではないので、女性グループとともに育てたりもしました。他にも有用液肥の普及や牛舎改善などを行いましたが、現地の人から人への知識や技術が広がっていく意識しました。日本の知識や技術も大事ですが、それだけだと遠い異国のものとはねつけられてしまったので、現地で工夫をしている農家さんの技術を紹介したり、農家さん自身を研修会の指導役としてお願いしたりしました。

知識や技術が根付くよう
現地の方法を尊重しました。

ネパールでの住まい



3階建ての家に3~4家族と同居していました。言葉や料理、お酒の造り方などいろんなことを教えてもらいました。共同の水場でみな一緒に洗濯して、太陽の下、屋上で色とりどりの服を干すのが一番好きな時間でした。



03 帰国後 & 現在

帰国3ヵ月後に任地を震源とした大きな地震があり、友人も命を落としたり、家をなくしたりしてしまいました。いても立ってもいられなくなり、甘楽町のNPO法人自然塾寺子屋にお世話になり、外務省のプログラムの下で1年間、復興支援活動に従事しました。かねてより第一次産業に携わりたかったため、縁あって養蚕という仕事に出会い、現在は養蚕農家として生計を立てています。



【1】田植えのお手伝い。男はひたすら畔をつくります。
【2】研修会です。若い子が講師役を買って出してくれました。
【3】エベレスト街道の景色です。
【4】ヒエの脱穀作業中です。

【派遣国】 パラグアイ
【職種】 陸上競技
【派遣年度】 平成27年度4次隊

Hironori Nakajima
中島 宏典 さん

【配属先】 スポーツ庁
パラグアイ陸上競技連盟

01 派遣前 & 応募動機

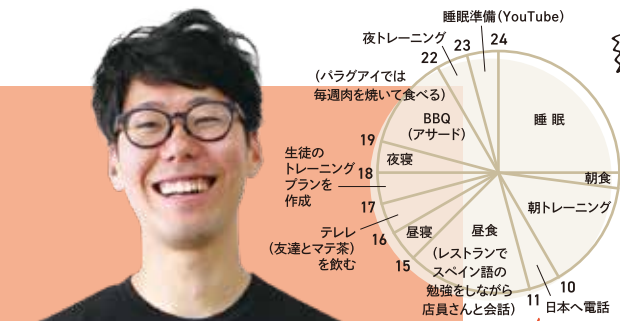
日本とは全く異なる環境に身を置くことによって、モノの見方の視野が広がり、トレーニングの指導方法にも幅が生まれると考え、応募しました。新潟大学健康スポーツ科学課程を卒業後、派遣前までに全米ストレングスコンディショニングというトレーナーの資格を取得しました。

幅広い活動に携わったことが帰国後に活かされています。

02 パラグアイでの活動

初めは言葉も全く通じず、身振り手振りでなんとかコミュニケーションを図ろうと必死でした。赴任初日で右も左も分からない中、同僚に「Hiro、1時間ランニングのドリルを指導して」と無茶振りされて、大汗かいたのを昨日のこのように覚えています。私が2年間の活動の成果として挙げられるのは以下の4つです。

- 陸上競技の指導…教え子達が全国大会で金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル5個という前代未聞のメダル数を獲得し、南米大会でも3位になるなど偉業を成し遂げてくれました。私自身も南米大会で走り幅跳び2位になり指導者として背中を語る事が出来ました。
- 市民の健康教室…肥満が国民的な問題となっているパラグアイ。赴任2年目からダイエット指導を開始して32名から合計171kgの減量に成功しました。
- モデルのボディメイク…良い意味でも悪い意味でも噂が広まるのが早いパラグアイ人のコミュニティー。「日本から来た脂肪を燃やすトレーナーがいる」ということで有名になり、ミスユニバース南米グランプリの国際大会に向けたボディメイクなども携わりました。
- サッカー選手のフィジカル指導…トレーニング指導は陸上競技に限らず、1部リーグに所属するサッカー選手のフィジカル指導も行いました。



パラグアイでのとある休日

パラグアイでの生活

シャワーは水。ベッドは虫食いスポンジ。停電は日常茶飯事。夏でもクーラーなし。2ヶ月もすれば慣れます。人間の適応力は凄いです。



【1】開設した女性専用のジムでの指導 【2】南米大会での表彰式 【3】メダルを獲得したパラグアイの陸上選手達 【4】トレーニング前に着ていた服はいつのまにか無くなっています。



03 帰国後 & 現在

帰国後は「ジムに行かなくても理想の身体作りができる」をコンセプトにした出張型パーソナルトレーニング『CUELPO (ケエルポ)』を立ち上げました。パラグアイの公用語であるスペイン語の“CUERPO”は“身体”という意味です。発展途上国で培った、限られた環境下で、どう工夫して質の高いトレーニングプログラムを作っていくかが濃縮された『CUELPO』。ジムのトレーニングマシンに頼らずともトレーナーの指導力で十分理想の身体になれることを実感してみてください。

message

応募を考えている方へ

青年海外協力隊の2年間はとにかく濃い。刺激強め。一生忘れない経験。モノの見方が変わる。ヒトとの接し方が変わる。文章では説明できないことだらけの連続だから、とにかく体験するのが一番です。

【配属先】 バロタック・ピエホ町
スペシャルエデュケーション(SPED、特別支援)センター

Kana Shimizu
清水 香奈 さん

【派遣国】 フィリピン
【職種】 障害児・者支援
【派遣年度】 平成28年度1次隊

profile 派遣前から現在まで

派遣前
1983年 群馬県生まれ
2007年 千葉大学教育学部卒業後、群馬県で教師として勤務。
2012年 JICA教師海外研修に参加し、ブータン王国を題材に、国際理解教育を実践。
2013年 グローバル教育コンクールにてJICA地球ひろば所長賞を受賞。

派遣中
2016年 7月: 現職教員特別参加制度を利用して青年海外協力隊員としてフィリピンに赴任。
8月: 活動先パナイ島へ。フィリピン人とアメリカ人と同居し、カルチャーショックを受ける。
11月: 現地の友人ができた一方で、同僚との関係に悩むことも増える。
2017年 7月: 同行してくれる協力者を探し、訪問教育をスタート。
11月: 配属先主催で他地域の教師を呼ぶセミナーを開催。

帰国後
2018年 3月: 帰国
4月: 現場復帰。群馬県内の中学校で勤務。フィリピンを題材に、勤務先の中学校や県下の学校の生徒に向け授業実践。日本の福祉の現場と繋がりたいと感じ、休日は福祉関係のイベントでのサポート活動を行う。
2020年 群馬県内の特別支援学校で勤務。現在より高い専門性、資格取得のために勉強中。

message

応募を考えている方へ

海外協力隊に参加したことは、私にとって一生の宝です。悩んだことも含め、全ての経験が自分の学びに繋がり、大切なモノ・コトと出逢うことができました。参加することで、きっと人生変わります。

01 派遣前 & 応募動機

小学3年生の時に、マザーテレサの本を読んだことがきっかけとなり、大学生の頃から、開発途上国の子どもたちと関わる活動をしたと思うようになりました。海外に行く前に、まずは日本で力をつけ、現地で意味のある活動をしたと考え、日本の教育を学ぶため、教師になりました。

02 フィリピンでの活動

私が常に大切にしてきたことは、任地の方々の同僚となり、一緒に活動することでした。一緒に活動する中で、任地の方が良いと思ったことを吸収し、役立ててくれたらと思っていました。主な活動内容の1つ目は、子どもたちへの算数教育と自立に向けた教育の充実です。生活スキルの向上として、手縫い技術習得のためのジュジュ制作・販売を行ったり、ソーシャルスキルトレーニングを行ったりしました。2つ目は、訪問教育です。地域ごとに障害児・者を集め行うグループ教育や家から出られない子どもたちへの家庭訪問教育を行いました。「1人でも多くの子どもに教育の機会をつくること」これが、協力隊に参加した私の一番の目的でした。3つ目は、他の協力隊員と協力し、現地教師同士が互いの授業を見合い、スキルを磨くセミナーを企画しました。

現地に溶け込んで活動の中から吸収してもらえる工夫をしました。

幸せなフィリピン生活

任国では、一緒に暮らしていた家族やフィリピン人の友だちと日常を共にすることが何より幸せでした。時間をかけ手洗いで洗濯をしたり、マーケットで生産者と顔を合わせて買い物をしたり、日常の1つ1つに時間をかけることは、生きるということへの実感に繋がりました。



03 帰国後 & 現在

フィリピンの良さを日本の子どもたちに伝えると共に、子どもたちの世界を広げたいという思いで、国際理解教育に力を入れてきました。フィリピンの生活で、自分で動いて繋がることの大切さと面白さを学んだため、現在は、興味・関心のあることや人と繋がるために、様々な場所に向いたり、研修や勉強会に参加したりしています。その中で、素敵な取り組みを行っている福祉施設と出逢うことができ、たくさんの刺激をもらい、自分の成長にも繋がっています。



【1】同僚と一緒にソーシャルスキルトレーニングの指導中 【2】創立記念日に同僚たちと一緒に記念撮影 【3】訪問教育で手先の巧緻性を高めるために、ちぎり絵に挑戦 【4】一緒に住んでいたフィリピン人の大家族さん姉妹と、アメリカ人ボランティアと。

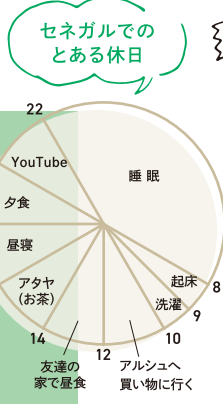
【派遣国】 セネガル
【職種】 看護師
【派遣年度】 2016年度2次隊

Ayako Takano
高野 綾子さん

【配属先】
ソコン保健センター

01 派遣前 & 応募動機

群馬大学病院、循環器・呼吸器内科で看護師勤務していましたが、90歳にも行う心臓カテーテル術や心臓マッサージに医療の行き過ぎを感じていました。同じ世界でも医療の足りないところがあるなら、そこであるところではないだろうか。そんな現場があるなら自分が足を運んで見てみたいと思い、協力隊へ!



profile

派遣前から現在まで

派遣前
1990年 群馬県下仁田町生まれ
2013年 群馬大学看護学専攻卒業後、就職。

派遣中
2016年 9月: セネガル・ソコンに赴任。ここでは日本人1人。最初の2日間を水とフランスパンを食べて過ごす。

発熱を繰り返した半年。最高記録は体温41度。現地のご飯を食べ、水を飲み、ひたすらトイレに座っていた時期。

2017年 言葉が未熟で何も言い返せなくて悲しくなる。生活ではお腹を壊すことはあまりなくなる。身体は慣れるものだ。

2018年 啓発ビデオを作ったり農村に出向いたり。継続するのが嫌になった時も、現地と同僚がひとり続けてくれていたと知り感動。

帰国後

2018年 9月: 帰国
2019年 1月: 帯津三敬病院に看護師として勤務。西洋医学だけでなく、エネルギーや心に対する治療を学び中。

02 セネガルでの活動

実行と継続の難しさと
尊さを実感しました。

赴任先のソコン保健センターでは定期的に『5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)』のプロジェクトが行われていたものの、私が着任した時には、病院はゴミが散らかっていたり、医療物品やカルテがバラバラに置かれていたりしました。同僚たちにも「ゴミは捨てるのは良くない、5Sはこのようにするのだ」といった知識はあるものの、実行して、且つそれを継続させるのが難しいようでした。同僚のマリックと共に病院を歩き回って毎日啓発活動するも、私も彼もモチベーションが続きませんでした。そこで、時々ビデオを回して他の同僚にも出演してもらったものを病院長に見てもらおう等して、お互いを励ましあいました。

わかっていることを実行すること、そして継続させることが何よりも難しく、それこそが尊いことだと思い、同僚たちと一緒に行動することを重視しました(かっこよく言ったらネ。笑)。そのほか、農村部に出向き、衛生啓発・家族計画・予防接種の介助なども行いました。



【1】農村へ予防接種に出かけた日、チームつばい。【2】ちいさな子どもたちママアイシャと折り紙【3】病院での手洗い啓発の1コマ。ユニセフの手洗い機を活用【4】お昼タイム、みんなで皿を囲みます。



【4】お昼タイム、みんなで皿を囲みます。

セネガルでの生活
マンゴーの木の下でのお昼寝がお気に入り。起きたら小さな子と一緒に汗だくになっていたなあ。「暑いから動かなくていいよ」って言うセネガル人の考え方が当時は本当に嫌だったけれど、同時にその感覚が心地良かったんだよね。

03 帰国後 & 現在

セネガルで垣間見た「生と死」は、思っていたとおり、なまやさしいものではありませんでした。日本だったら助かる生命がこぼれ落ちたこともありました。でもその中で、「神様(アッラー)」の存在はとにかく大きかったです。神様の存在で生命の儚さ・どうしようもなさを受け入れる場面にたくさん出会いました。現在、「ホリスティック」という言葉に出会い、健康を「身体・心・こころ・たましい」という全体的に捉える医療をする現場にいます。



message

応募を考えている方へ
やりかたったら、行きたかったら、行ってみたいと思います。応募する前に、家族や自分の周りに人にたくさん「ありがとう」を伝えてください。応援しています^^

Tadashi Baba
馬場 正さん

【派遣国】 フィジー
【職種】 土木
【派遣年度】 2016年度3次隊

【配属先】
ナウソリ町役場

profile

派遣前から現在まで

派遣前
1955年 群馬県館林市生まれ
1973年 3月: 航空自衛隊入隊。
1979年 4月: 館林消防本部入署。
2015年 3月: 消防本部を36年間勤務し、60歳で定年退職。

派遣中
2017年 1月: 2016年度3次隊員として、フィジーへ赴任。
2月: 現地語学訓練を終え、赴任先のナウソリ町役場で活動を開始
3月: カウンターパートナーと共に赴任先のインフラ状況を確認して、2年間の活動計画表を作成。

2018年 1月: 任国と日本国とを対比して、公共機関の予算執行の相違を確認。

帰国後

2019年 1月: 帰国。四国88ヶ所お遍路巡礼を開始。
3月: 2019年度JICA春募集に応募。
12月: 台風19号の災害支援として、長野県で青年海外協力協会のボランティアに参加。

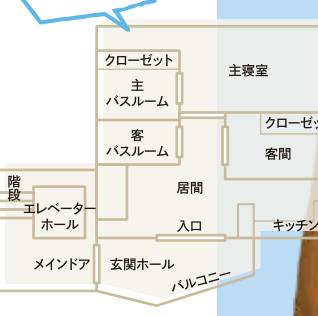
2020年 4月: 2019年度3次隊員として、派遣待機期間の特別延長中。

01 派遣前 & 応募動機

定年退職を間近に控えた58歳の時、青年海外協力隊活動を終了した隊員が、私どもの職場に採用されたことがきっかけとなりました。彼から、現地でのリアルな体験を聞くことで、私にも出来ることあるのではないかと考えるようになりました。そして退職した後にシニア海外協力隊に応募し合格、世界に向けた大きなチャレンジの扉が開かれました。

長年、培った経験を、
世界で活かしました。

フィジーでの住まい



02 フィジーでの活動

私の業務経験は「消防」でした。その経験が活かせる「自然災害に対する安全対策」ならば、私自身の経験が活用できると思い応募しました。赴任先のナウソリ町は、首都のスバ市から東へ約20km離れた地方の町で、人口約3万人が生活していました。町の主要部では、電気、ガス、水道の基本的なインフラ設備や携帯電話、インターネット等の通信網は積極的に整備され、数多くの住民が利用していました。しかし、郊外の村落では、上下水道の整備状況は極めて遅延しており、雨水を利用した水道の整備普及にJICAが支援をしている現状でした。この町の町営ラグビー場やバスターミナル、マーケット等の管理方法の助言と雨水排水溝の修繕マニュアルの作成を主な活動としておりました。



【4】崩壊した斜面への復旧対応の一つ「蛇籠工法」です。

message

応募を考えている方へ

シニア海外協力隊員として活動を行うためには3つのハードルがありました。
第1に、自身の健康確保すること。
第2が、身辺の諸事情整理、子供の養育や親の介護を一段落させること。
第3は、家族の理解です。特に妻の理解は絶対不可欠です。さまざまな意見はありますが、協力隊への挑戦は、自信をもってお勤めできます。



【1】「Happy Friday」には伝統的な洋服の「ブラジャツ」を着て勤務【2】フィジー最大級の河川「レウ川」です。未だに堤防がありません。【3】フィジアン男性の正装は、上は「ブラジャツ」、下は「スル」の着用が基本です。【4】崩壊した斜面への復旧対応の一つ「蛇籠工法」です。

03 帰国後 & 現在

フィジー共和国で生活をしてとても印象的だったのが、多くの職場や学校において、生誕祭、感謝祭、記念式典、バレードなど年次的な催物が順次開催されていたことです。多くの国民が参加し、皆が楽しく過ごしていました。フィジーは幸福度調査で世界1位になったこともあり、それらを実感しながら毎日を過ごしていました。帰国後は、日本のことをもっと知りたいと思い、四国88ヶ所お遍路巡礼を開始しています。写真の一条院は88遍路の一番最初の場所です。

